



地域包括ケア病棟とは

地域包括ケア病棟は、平成26年の診療報酬改正で新設され、当院では同年8月より運用を開始しています。地域包括ケア病棟の役割のひとつには、地域からの受け入れが挙げられており、在宅から受け入れすることで疾病の重症化を避け、住み慣れた地域で住み続けることが可能となります。

当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について (地域からの受け入れ)

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方
5. CKD（慢性腎臓病）教育入院
6. 糖尿病患者さん食事体験入院
(2月から受け入れを開始しました)



問い合わせ先

地域医療連携室（担当：中嶋・南出）

TEL：0774-72-0235

E-mail: ti0001@yamashiro-hp.jp

※バックナンバーは、[当院ホームページから閲覧できます。](#)「[トップページのご利用者への案内](#)」→「[入院案内](#)」→「[地域包括ケア病棟の御案内](#)」

地域包括ケア病棟で受け入れた事例（第13回）

利用目的：退院準備目的

誤嚥性肺炎で特養から入院となりました。一般病棟で治療後、特養復帰に向け、地域包括ケア病棟へ転棟して頂きました。（主任ソーシャルワーカー 中嶋 庸介）

施設へ再入所するに際し、“食事”が課題でしたので、地域包括ケア病棟へ転棟後は、嚥下造影検査（VF）を受けて頂きました。その結果、患者さんの嚥下機能には低下が見られず、今回入院の契機となった誤嚥性肺炎は、食事摂取時の姿勢が原因であったことがわかりました。言語聴覚士によるリハビリを継続して実施し、施設へ退院できるほどの十分な食事量の摂取が可能となりました。入院中、施設の栄養士の方に実際の訓練場面を見学してもらい、食形態や介助方法などについて情報共有を行ったり、ご家族・施設の職員の方を交えたカンファレンスを実施しました。

誤嚥性肺炎は高齢の方には多い病気ですが、その原因は様々です。今回のように、嚥下機能が低下していなくても姿勢や覚醒の具合で誤嚥してしまうこともあります。施設に戻って頂く前に、十分に情報共有ができたことで、安心して過ごして頂ける環境が整えられたのではないかと思います。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）



施設入所中の方や在宅におられる方で、嚥下機能評価を希望される方がおられましたら、

ご相談下さい。（担当：中嶋・南出）



地域医療連携室より

“Design”発行から1年が経ちました。

この地域包括ケア病棟広報誌“Design”を発行し、1年が経ちました。目を通して頂いている方々、ありがとうございます。事例紹介などを通じて地域包括ケア病棟のことを少しでも知って頂く機会になっていればと思っています。

広報誌の名前を決めるにあたり、他に候補として、“Future（未来）”と“Collabo（コラボ）”がありました。“Future”は、2025年という“未来”に想いを馳せるという意味、“Collabo”は、地域包括ケア病棟を介して地域の皆さんとコラボレーション（協働）するという意味です。どちらも甲乙つけがたかったのですが、最終的には“Design”に決まりました。「デザインをする」という主体的、能動的なところが決め手となったのかもしれませんが、もちろん、この地域の未来に想いを馳せ、できることを考えたり、地域の皆さんと協働することも大切です。これらを忘れないよう、今後も“Design”の発行を継続したいと思っています。ご意見・ご要望などがありましたらお知らせ下さい。

和束町の空と茶畑



（地域医療連携室 係長 南出 弦）